



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

一緒なら、救える。

TEAM
SAVE 365

日本赤十字社の活動は、
皆さまの寄付によって支えられています。

赤十字 寄付

- 日本赤十字社
- 日本赤十字社 @JRCS_PR
- japaneseredcross_official
- JapaneseRedCrossPR



赤十字は、 動いてる!

あなたと想いをひとつにして。



日本赤十字社に
ご支援いただき、
まことにありがとうございます。

近年、自然災害の激甚化・頻発化する中、
令和6年元日、石川県能登地方を震源とする大地震。
世界に目を向けると、
ウクライナ人道危機の終息が見えない中での、
イスラエル・ガザの大規模な武力紛争。

絶え間ない自然災害や武力紛争による人道危機に直面する人々を、
日本赤十字社をはじめ各国の赤十字・赤新月社、そして国際赤十字機関は
総力を挙げて支援をしています。

こうした国内外での支援活動に、皆さまからの
ご寄付や赤十字ボランティアのお力は不可欠です。
「いかなる状況下でも人間のいのちと健康、尊厳を守る」
という日本赤十字社の使命は、これまでも皆様のご支援によって
可能となってきましたし、これからもそれなくしては、実現できません。

引き続き皆さまと共に、国内外の人道危機に対応し、
赤十字運動の輪を更に広げるべく、
私たちは今日も明日も活動を続けてまいります。

日本赤十字社 社長

清家 篤

赤十字をはじめて知る方へ



Q. 災害が起こった時、
赤十字って何をしているの？

A. 赤十字は、国内外の**災害(地震
や台風など)現場に駆けつけ、
いのちを救うための医療や
看護の支援**を行っています。
また、普段は災害に備えた訓練や
啓発活動に取り組んでいます。

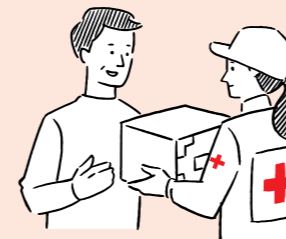
Q. 誰が活動しているの？

A. 普段は赤十字の病院に勤めて
いる**医師・看護師・助産師・
薬剤師**のほかに**ボランティア**
などが活動しています。



Q. 赤十字は税金で
活動しているのですか？

A. いいえ、赤十字の活動のほとんどが
**皆さまからのご寄付により支え
られており**、救護班の育成や救援
物資をお配りするための費用に役
立てられています。





赤十字の活動

国内災害救護活動 ▶ P5

救護訓練や物資の整備など、常に災害対応できる体制を整え、災害時には現地へ駆けつけ救護活動を実施します。



国際活動 ▶ P7

海外で発生した災害や紛争、感染症等の病気で苦しむ人びとを救うため、救援や復興支援、予防活動に取り組みます。



ボランティアなどの育成 ▶ P8

全国の赤十字ボランティアや青少年赤十字メンバーの育成を行います。



救急法などの普及 ▶ P8

身近な人を救うための知識と技術の普及を行います。



赤十字は、動いてる！

あなたと想いをひとつにして。

災害、紛争、貧困や感染症 ...
多くの人を苦しめる人道危機は、
世界中でますます深刻化しています。
幸せな生活を理不尽に奪われ、
傷つき苦しんでいる人たちを救いたい。
あなたのその想いを担って、
赤十字は今日も明日も活動を続けます。
いかなる状況下でも、
人のいのちと健康と尊厳は、
守られなければならない。
365日とぎれることのない救護と支援は、
あなたと赤十字のアクションです。

※医療事業、血液事業、社会福祉事業は、それぞれ診療報酬や血液製剤の供給収益、介護保険収入などを主な財源として活動しております。

あなたのご寄付で実現した
国内災害救護活動



令和6年能登半島地震

石川県能登地方を震源とする最大震度7の地震の影響により、津波及び火災等が起り、甚大な人的及び住家被害が発生しました。災害発生直後から関係機関と連携し、救護班等による救護所の開設や避難所の巡回診療などを実施したほか、断水地域では給水衛生支援を実施するなど、ニーズに即した幅広い活動を実施しました。

主な実績

[職員の派遣](2024/1/29現在)	
救護班等(DMAT含む)	190班
日赤災害医療コーディネートチーム	54班
連絡調整員等	143人
こころのケア要員	14人
被災地医療機関支援(看護師派遣)	34人
[救護物資の配布](2024/1/29現在)	
毛布	16,005枚
緊急セット	2,224セット
安眠セット	5,230セット
携帯型簡易トイレ	3,400個
[赤十字ボランティアの活動]	
ボランティア活動	471人



被災された方の声

避難所では食生活も糖質ばかりで偏るストレスもある。それでも赤十字の医師に処置してもらえたのは幸運でありがたかった。輪島朝市の火災で自宅も何もかも無くして落ち込んでいたけれど、もう一度ゼロからがんばるしかない、がんばってみようと思えそうです。



令和5年梅雨前線による大雨

梅雨前線の影響で、複数県に大雨特別警報が発令されました。発災直後から関係機関と連携し、救護班等による健康観察や被災者宅の巡回診療などを実施したほか、炊き出しや被災住宅の片付けなどのボランティア活動を実施しました。

主な実績

[職員の派遣]	
救護班等	41人
日赤災害医療コーディネートチーム	12人
連絡調整員	65人
こころのケア要員	43人
[救護物資の配布]	
毛布	610枚
緊急セット	951セット
安眠セット	311セット
タオルなど	3,690枚
医療品セット	550セット
[赤十字ボランティアの活動]	
ボランティア活動	148人



令和5年台風第6号及び7号

台風第6号は沖縄県に大規模な停電を、立て続けに発生した第7号は近畿・中国地方に記録的大雨をもたらしました。発災直後から関係機関と連携し、救護班による避難所巡回や救護物資の配布、ボランティアによる熱中症予防啓発などを実施しました。

主な実績

[職員の派遣]	
救護班	4人
日赤災害医療コーディネートチーム	1人
連絡調整員等	17人
[救護物資の配布]	
毛布	68枚
緊急セット	30セット
安眠セット	109セット
タオルなど	139枚
[赤十字ボランティアの活動]	
ボランティア活動	73人



地域密着型
「赤十字防災セミナー」を
全国各地で開催

大規模災害から人々のいのちを守るためには、地域における「自助」「共助」の力の向上が重要です。この事業では、被災時におけるイメージを構築し、災害発生直後のいのちを守るための知識や技術を普及しています。

あなたのご寄付で実現した 国際活動



中東人道危機救援

中東地域は、歴史的な問題、各地で続く散発的な武力衝突など、多くの国で複雑な人道危機や深刻な難民問題等を抱えています。脆弱な立場にある人々は、安全な生活や食料、水、医療など基本的なサービスへのアクセスが充分ではありません。日本赤十字社は、2015年からレバノンに中東地域代表部を構え、国際赤十字とともに必要な支援を届ける活動を継続しています。

主な活動実績

パレスチナ赤新月社との医療支援事業(事業地:レバノン、ガザ地区)
・現地の医療従事者への医療技術支援、
看護実践能力の向上・新生児ケアの強化

レバノン赤十字社が所有する診療所への支援(事業地:レバノン)
・上水タンクや排水管网、水飲み場・手洗場やトイレなどの
整備や設備改修、診療所の運営支援



ウクライナ 人道危機救援

2022年2月24日以降ウクライナ各地で戦闘が激化し、現在も多くの人が犠牲になっています。今でも1,000万人近くの人びとが国内外での避難生活を余儀なくされ(2023年11月時点)、厳しい暮らしを強いられています。日本赤十字社は、国際赤十字機関への資金拠出に加え、ウクライナ赤十字社の巡回診療支援などの二国間事業により支援を拡げています。

主な活動実績

・保健医療支援(76万人)・物資配布支援(1160万人)

・現金給付支援(343万人)・居住支援(190万人)

07

あなたのご寄付で実現した ボランティアなどの育成/救急法などの普及



親子防災教室で 体験!学習!

全国の赤十字ボランティアは約85万人。平時から、防災知識や他者を思いやる気持ちを学ぶことができる「夏休み親子防災セミナー」等において、地域との繋がりを大切にしながら、日々、防災・減災活動するなど、様々な活動に取り組んでいます。



「気づき・考え・実行する」 住みよいまちづくりのため 高校生が地域清掃

青少年赤十字は、赤十字の考え方を通じて、人を思いやり、主体的に行動する子どもを育成しています。メンバーは全国約350万人。清掃のほか、高齢者との交流や挨拶運動など、誰かのために活動する経験から様々な学びを得ています。



水の事故ゼロを目指して 楽しみながら学ぶ 水上安全法

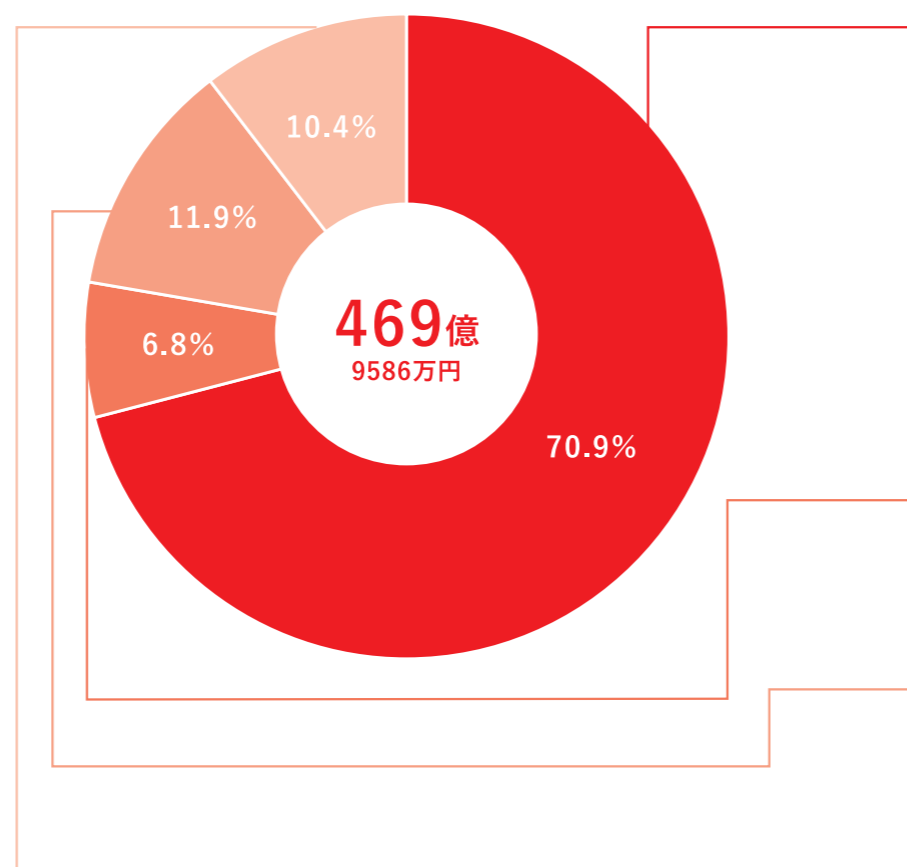
水の事故が頻発する夏季、各支部では水の事故から人のいのちを守るための講習を開催しています。また救急法をはじめとした講習を実施し、日常生活におけるけがの手当や事故防止など健康安全に関する知識・技術の普及を行っています。

08

ご寄付の活かし方

令和4年度 歳出(一般会計)の報告

国内外で苦しんでいる
人びとを救うため、
皆さまから託されたご寄付を
活用しています。



苦しんでいる人びとを救うための費用

333億4323万3千円

国内外における救護活動

国内災害対応や国際活動、
復興支援などに使われた費用です。



防災活動

防災イベント・セミナーなどに
使われた費用です。



ボランティアの育成

ボランティアの育成や活動に
使われた費用です。



広報活動のための費用 | 31億7505万1千円

広報・普及活動

会員への参加呼びかけや広報活動、寄付の募集のために
使われた費用です。

事務のための費用 | 55億7873万2千円

事務管理

支部、病院、社会福祉施設の事務局・本部機能として、施設負担を
除いた事務経費に使われた費用です。

その他の費用 | 48億9883万9千円

次年度の活動

次年度当初の活動のために使われる資金です。

あなたのご寄付でできること



皆さまからのご支援は、赤十字のさまざまな活動や救援物資の購入などにカタチを変えて、困っている人たちに寄り添います。

2,000円 ▶ 毛布 / 1人分

避難所での生活に不可欠な「毛布」を1人分備えることができます。



3,000円 ▶ 安眠セット / 1人分

避難先での生活を少しでも快適に過ごしていただけるよう、キャンピングマット、枕、アイマスクなどが一式収納された「安眠セット」を1人分備えることができます。



5,000円 ▶ 緊急セット / 1セット4人分

避難先での生活にあると便利なマスク、ウエットティッシュ、ラジオ、懐中電灯、歯ブラシなどが一式収納された「緊急セット」を1セット(4人分)備えることができます。



10,000円 ▶ 心肺蘇生トレーニングキット / 5人分

簡易的に心肺蘇生を体験することができるトレーニングキットを整備することで、大人数での講習を実施することができます。



30,000円 ▶ 心肺蘇生訓練人形 / 1体

日本では、7分に1人が心臓突然死で亡くなっています。突然の心停止に陥った人を救う「心肺蘇生」を学ぶための器具「心肺蘇生訓練人形」を準備することができます。



被災された方の声

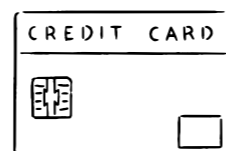
何も持ってこれなかったのが、日赤さんから毛布をいただけて、すごくうれしいです。避難所の皆さん、喜んでと思いますよ、皆さん下に(日赤の毛布を)敷いてらっしゃるでしょう。これ一番最初にいただいて、助かってます。

一緒なら、救える

日本赤十字社へのご寄付の方法

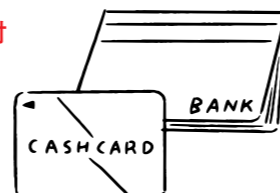
クレジットカードやAmazon Payで寄付

Webサイトからの登録により、クレジットカードやAmazon Payでご寄付いただけます。ご寄付は、毎年・毎月・今回のみからお選びいただけます。



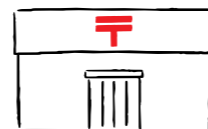
郵便局・銀行の口座振替で寄付

ご希望の口座から自動引き落としでご寄付いただけます。お申込みには「会員加入申込書」をお送りください。ご寄付は毎年・毎月からお選びいただけます。



郵便局・銀行の口座への寄付

日本赤十字社では郵便局(ゆうちょ銀行)や銀行などで寄付専用口座を開設しております。



お近くの日本赤十字社窓口で寄付

お住まいの都道府県にある全国47箇所の日本赤十字社支部窓口でもご寄付を受け付けております。また、自治会、町内会等を通じたご寄付についても、地域の防災・減災活動やボランティア育成等に活用しています。



スマホアプリ

J-Coin Pay「ぽちっと募金」を使って寄付

みずほ銀行や全国150以上の金融機関で口座をお持ちの方は、スマホ決済アプリ「J-Coin Pay」からご寄付いただけます。



カードのポイントで寄付

クレジットカードでの買い物や、各種サービスでカードに付与されるさまざまなポイントを利用して、ご寄付いただけます。



コンビニで寄付

コンビニエンスストアにある情報端末(ローソンマルチメディア端末「Loppi」、ファミリーマート「マルチコピー機募金受付サービス」)や、セブンイレブン等にある全国の「セブン銀行ATM」で、ご寄付いただけます。

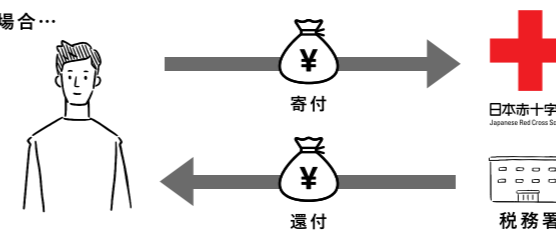


寄付方法の詳細は、日本赤十字社Webサイト「寄付する」のページをご覧ください。

税制上の優遇措置

日本赤十字社へのご寄付は確定申告することで個人の所得税や、企業の法人税の優遇措置を受けられます。

個人の場合…



所得控除の計算式

A: 年間所得総額 - B: (寄付金額^{*} - 2,000円) = C: 所得税課税対象額

*ただし、寄付金額は年間所得総額の40%が上限となります。

表彰制度のご案内

活動資金や献血などにご協力いただいた場合は、表彰制度を設けています。詳しくは、日本赤十字社のホームページ又は、各都道府県支部までお問い合わせください。

*寄付などの協力に際して取得する個人情報は、日本赤十字社の広報活動や事業資金などの募集のためにのみ使用します。詳しくは、日本赤十字社Webサイトをご確認ください。